

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校低学年の漢字が身に付いていない生徒が2～3割いる。全体的に、漢字を用いず、平仮名で書く習慣が付いている。</li> <li>・文章を書く経験や語彙力の不足から、自分の考えを文章で説明する力、助詞の使い方に課題がある。</li> <li>・平易な言葉に置き換え、時間をかけて説明する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校第1学年の漢字から復習を兼ねた漢字テストを毎時行っているが、1割の生徒が満点をとれない。</li> <li>・語彙力・漢字力の不足から自分の考えや思いを適切な言葉で表すこと、ことに書くことには未だ課題がある。</li> <li>・意見交換や発表に慣れ、話し合いの手順に沿って進めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間の漢字小テストにより、学習の定着が見られた生徒が増えてきている。しかし、定期考査などの漢字テストでは、正答率が伸び悩んでいる。全国学力調査の結果からも、苦手としていることがわかる。語彙力不足から、自身の考えを言葉で表現する際にもうまく表現できない生徒がいる。</li> </ul>
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことや発表に苦手意識を持つ生徒はいるが、授業に意欲的に取り組み、理解しようと努力する姿は見られる。</li> <li>・人前での発表には抵抗があるが、小グループの音読では全員が意欲的に取り組むことができた。段階を踏んで対面やクラス全体への発表に抵抗がなくなるよう運びたい。</li> <li>・漢字テストは予告した10問をそのまま出題する小テストを実施しているが、7点未満の生徒が3割以上いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことは苦手ではあるが粘り強く取り組もうとする生徒が増えている。押さえるポイントを確認して個別で思考を深め、その後意見交換し考えを再構築している。</li> <li>・詩の群読やプレゼンテーションを繰り返すことで、発表に対する抵抗が減り、どうすれば思いが伝わるのかを工夫できる生徒も増えている。</li> <li>・古典への抵抗を少なくするために百人一首の暗記を取り入れ、生活の中からも古典に触れる機会を増やしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの考えを表現しようと努力する姿が見られ、その考えを他者と共有し、さらに深めようとしている。教え合いや、自由に話す時間を増やすことで、協働的な学び合いができています。</li> <li>・俳句の創作や、小論文の内容を社会問題に設定するなど、生徒の生活にかかわるよう工夫している。</li> <li>・200字作文を10分以内に完成する生徒が増えてきた一方、語彙を調べるためにインターネットを活用する生徒が一定数いる。</li> </ul>
生徒アンケートの結果より	<p>全ての項目で8割以上が肯定的な回答となっている。一方、考える時間、意見交換の機会について不足していると感じていることがわかる。基本的な読解力・思考力を身に付けたいという意欲を伸ばしたい。</p>	<p>すべての項目で8割以上が肯定的な回答となっている。意見交換の機会を増やしたことで、生徒が自分の考えに自信をもつことにつながったと考えられる。読解力や思考力を伸ばし、自分の考えを適切に述べられる力を付けたい。</p>	<p>ほとんどの項目で8割以上が肯定的な回答となっている。その一方で、考える時間が不足していることや、復習したいと思えるような授業ができていないことがわかった。適切な思考時間と、振り返りたくなるような授業を考えていき、自身の考えを適切に表現できる力を付けたい。</p>

【授業改善の手だて】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要約に取り組む中で基本的な読解力を身に付ける。</li> <li>・主体的・対話的で深い学びに繋がる話し合い活動の仕方を身に付けさせる。また、話し合いの中から<u>自身の考えを再構築する力を身に付けさせる。</u></li> <li>・問いに対する答え方や文章の書き方など、「型」を身に付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要約を繰り返して基本的な読み取る力をつける。</li> <li>・主体的・対話的で深い学びに繋がる話し合い活動の仕方を身に付けさせる。また、話し合いの中から<u>自身の考えを再構築する力を身に付けさせる。</u></li> <li>・問いに対する答え方や文章の書き方など、「型」を定着させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要約を繰り返し、応用的な読み取る力もつける。</li> <li>・主体的・対話的で深い学びに繋がる話し合い活動の仕方を身に付けさせる。また、話し合いの中から<u>自身の考えを再構築する力を身に付けさせる。</u></li> <li>・問いに対する答え方や文章の書き方など、「型」を定着させ、<u>応用的な場面でも実行できるようにする。</u></li> </ul>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各時間のテーマを明確に示すとともに、課題についての自分の考えを確認し、他者と共有させる。</li> <li>・各単元の身に付けるべき力(型)を明確・簡潔な言葉で提示する。</li> <li>・主体的かつ見通しをもった取り組みにつながる課題設定を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「単元の目標」、「今日のめあて」を明確に提示し、課題に対しどのように取り組めたか、どんな力が身についたかを他者と共有、ひかく生徒自身に考えさせる。</li> <li>・主体的に学ばせるために見通しをもった課題設定や発問を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各授業のめあてを提示し、そのめあてについて、他者と共有し、力が付いたかどうか考えさせる。</li> <li>・主体的に学ばせるために見通しをもった課題設定や導入、発問を行う。</li> </ul>